



# 森林ふれあい情報

令和 元年10月  
第 52 号

林野庁中部森林管理局  
木曾森林ふれあい推進センター  
〒397-0001 長野県木曾郡木曾町福島1250-7  
TEL:0264(22)2122 FAX:0264(21)3151  
E-mail:kiso-fureai@maff.go.jp

## 温帯性針葉樹林の保存・復元に向けた取組

### 三者協定 現地検討会

7月22～23日に三者協定（三者協定：森林・林業及び木材利用に関する研究・技術開発等における連携と協力に関する協定）現地検討会を実施し20名が参加しました。

本協定は、森林総合研究所、信州大学農学部及び中部森林管理局の三者が、それぞれ実施する研究、事業、イベント等において連携・協力することにより、地域の森林・林業及び木材利用の課題解決並びにその成果を活用する取組みにより地域の振興を図ることを目的としたものです。

今回の検討会では、お互いに関わっている木曾森林管理署管内の木曾ヒノキ天然更新試験地などの取組みを確認し情報を共有することを目的に開催しました。

1日目は、木曾森林管理署において、現地検討箇所についての概要説明を各担当者からプレゼンした後、意見交換を行いました。

2日目は王滝村にある三浦国有林において現地検討を行いました。

信州大学からは三浦実験林において、昨年度設定したベルトトランセクトや更新状況についての説明が、森林総合研究所からは閉鎖した林冠下で実施したササ処理と実生発



試験地の説明に耳を傾ける参加者



現地説明箇所の事前説明を受ける参加者

生の成果について説明がありました。また、木曾署・ふれあいセンターからは、これらの成果を参考に三浦国有林において実施している。また、実施しようとしている試験について説明を行いました。お互いに現地で成果を確認したことにより理解を深めることができました。

参加者からは成果についての質問、試験に対する意見やアドバイスなど屈託のない意見が出され、今後の連携に向けた足がかりとなりました。

## 中央アルプスでの植生復元

中央アルプス駒ヶ岳（標高2,956m）の頂上周辺では、登山者の踏み荒らしや、大量の降雨、降雪、強風による砂礫の移動等により貴重な高山植物の衰退が懸念され、当センターでは関係機関・団体等と連携して植生の衰退防止と復元を図ることを目的に平成17年度から植生マットの敷設作業を開始し、平成30年度までにマットの補修（敷き直し）を含めて延べ2,398㎡を実行してきました。

植生マットの敷設等を行ったことで、登山者による踏み荒らしの回避、表土の流出防止、砂礫の移動を最小限に抑える等の効果があり、駒ヶ岳の植生が徐々にではありますが着実に復元してきています。

9月11日（水）、駒ヶ根市観光推進課職員の方をはじめ南信及び木曾森林管理署員等15名の参加のもと、ロープウェイ山頂駅から現地までの資材運搬と植生マット補修（80㎡）を行いました。

作業地付近は、濃霧と強風により作業は難航しましたが植生マット敷設作業等は無事に終了しました。しかし、高山植物種子の播種作業はできなかったため13日に当センター職員にて実施しました。

今後も、実行箇所における植生回復の経過観察を行いつつ、補修が必要な箇所への敷設作業を取り入れるなど、高山帯での植生復元事業に取り組んでいきたいと考えています。



植生マット敷設作業

## 木曾の国有林見学会(令和元年夏季)

7月21日（日）、木曾森林管理署管内の赤沢自然休養林で、木曾川下流域の住民を対象とした「木曾の国有林見学会令和元年夏季」を開催しました。

今回の開催では、一般参加者に加え、小中学生の子供達にも森林の働きや自然の大切さ等に関心を持ってもらうために、名古屋市周辺の学校の夏休み期間中で、親子で参加しやすい日曜日に開催したところ、小学生4名の参加がありました。

この催しは、江戸時代から深い繋がりを持つ木曾地域と木曾川下流域との関係や、森林・林業について理解を深めてもらうことを目的に、木曾川下流域住民の方々に、木曾川源流域の国有林を訪ねてもらい、木曾地域の林業の歩み、木材輸送（伐採地、小谷狩り、森林鉄道）等名古屋市の白鳥貯木場にたどり着くまでの運材技術の変遷や木材の出材地を実際に見聞きし「400年の歴史」を体感し、日本の森林・林業の現状について理解



木曾五木の説明を受ける参加者



を深めていただくとともに、木曽地域の支援を目的として開催しています。

当日は、名古屋市内を中心に小学生を含む参加者16名とスタッフ1名が、名古屋事務所「熱田白鳥の歴史館」を出発し、バスの中でも森林鉄道や木曽ヒノキに関する映像を見ながら自然休養林にバスを進めました。途中からバスに乗り込んだ当センター所長から、赤沢自然休養林等の説明を受けながら、木曽ヒノキの生誕地へと向かいました。



森林鉄道に手を振る子供達

自然休養林到着後は、あいにくの曇り空でしたが、参加者達は眺めの良い場所で各々に昼食を取り、その後、森林鉄道に乗り、緑豊かな森林と清らかな溪流が織りなす景色を眺めながら終点の「丸山渡停車場」に下車しました。下車後は当センター職員と木曽森林管理署職員のガイドにより、歴史とともに育まれてきた樹齢三百年余りの木曽ヒノキやサワラが生い茂る林内を散策し、木曽の林業の歴史や運材方法、伊勢神宮との関わり、木曽五木の樹種の見分け方や特徴、子供達は森林の働き等を学びながら、約2時間の散策を満喫しました。

参加者からは「名古屋市では見られない自然が見れて大変良かった」また、参加した小学生からも「森林鉄道に乗れてよかった」「お弁当がおいしかった」などの感想が聞かれました。

なお、この催しは、木曽復興支援の取組としても位置づけており、実施にあたり参加者の意見・目線をとらえ、より意義のある催しとなるよう今後も努めて参ります。

## 林業体験指導

### みどりの少年団交流集会

木曽地域のみどりの少年団が一堂に会し、緑豊かな自然の中で互いに交流し、共同作業や森林・林業その他自然に関する学習活動を通じて相互の連携を深め、緑豊かな心を育むことを目的とした木曽地区みどりの少年団交流集会が、7月31日（水）に長野県木曽地域振興局の主催で開催され、当センターから2名が技術指導で参加しました。

当交流会は木曽地域の町村で毎年実施されており、今年は昨年度に引き続き王滝村「松原スポーツ公園」を会場に木曽地域の10の少年団、引率教員、主催者、指導者等を含め約130名が参加しました。



木曽五木のペン立てづくりに励む団員達

交流会は、代表として4つのみどりの少年団による活動発表後に各グループ毎に別れて名札づくりと自己紹介を行いました。その後、アイスブレイクでグループ内の緊張をほぐし、森や自然、木曽五木等に関するクイズラリーを行いました。

午後も、引き続きグループ毎で木工体験として木曽五木を用いたペン立て作りを行い、子供達は交流会が終わる頃にはお互いに仲良くなり、良い交流の場となりました。

## 阿久比高校森林ボランティア

8月6日（火）愛知県立阿久比高等学校の生徒45名と教師4名により、木曾群上松町の小川入国有林において、クマ被害防止テープ巻き作業を行いました。

阿久比高校の生徒達は、毎年阿久比町内外でボランティア活動を実施しており、この森林ボランティアも、今回で22回目となります。

作業地は毎年長野県西部地震復旧跡地の「国民の森」において除伐作業を実施していましたが、昨年7月の豪雨により林道が荒れてしまい、未だ通行が困難な状況となっていることから、作業場所を変更して実施しました。

当日は当センター職員の指導の下4班に分かれ、個々にクマ被害防止テープ巻き作業を行いました。

どの生徒も最初は慣れない作業で手間取っていましたが、作業を進めるに次第にうまくなる様になり、終わるまで怪我も無く無事に作業を終了することができました。

今回のボランティア作業を通して、森林の大切さや森づくりの苦労などの理解を深めることができたと思います。



獣害防止テープ巻きを行う生徒達

## みよし市友好の森ふれあいツアー

8月24日（土）愛知県みよし市が開催した「みよし市友好の森ふれあいツアー」にみよし市在住の市民30名（内小中学生20名）が、除間伐及びクマ被害防止テープ巻き作業に技術指導として木曾地域振興局員、木曾森林組合員、木曾森林管理署職員1名と当センター職員2名の総勢46名で行われました。

この催しは、黒沢御岳国有林と隣接する木曾町三岳地区内にみよし市が水源涵養林として所有しているみよし市友好の森の除間伐作業を通じて、市民の方に森林保護、環境保全等の啓発及び、水源地の皆さんとの交流を図ることを目的として毎年開催しています。



手鋸で間伐体験する子供達

当日は、最初に参加者達は御岳ロープウェイの乗車体験、その後、友好の森に移動し、班別に森林散策をしながら作業地に向かいました。到着後は伐倒及びテープ巻き方法の指導後に班別に分かれて作業を行いました。

参加した小中学生の子供達は手鋸で木を切ることが初めての子どもが多く、大変苦労して倒した時の嬉しそうな顔が印象的でした。また、記念に倒した木を輪切りにして持ち帰る子供達も見えました。

参加者達は「楽しい1日を過ごすことができました」との意見が聞かれる中、怪我もなく無事に作業を終え帰路に着きました。